【テゲバジャーロ宮崎】 2024Jリーグ新人研修クラブ運営サポート活動レポート
高瀬 生聖、藤本 奎詩

2024 年 4 月 10 日（水）、宮崎県新富町に位置するいちご宮崎新富サッカー場で行われた明治安田J2リーグ第 9 節FC今治戦にて、高瀬 生聖 選手と藤本 奎詩 選手が、Jリーグ新人選手研修の一環として公式戦運営業務体験に参加しました。この研修は、ホームゲームの設営、スポンサーへの挨拶及び接客、VIP 席での食事配膳などを通じて、プロサッカー選手としての自覚を養い、試合運営の重要性を学ぶことを目的としています。
また、ケータリングサービスは、いちご株式会社のグループ企業であるいちごポタジェ株式会社が提供しており、選手育成をグループ全体で支援し続けることを目指しています。

◎選手のコメント

高瀬 生聖 選手

プロサッカーチームの設営に初めて携わり、プレイヤーとして快適にサッカーをするための環境が整っていることへの感謝の気持ちを新たにしました。学生時代のサッカーとは異なり、関わる人々の数も規模も大きく異なります。スタッフの方々がプロフェッショナルとして細部にまで気を配った設営を目の当たりにし、サッカー以外の場面でもプロとしての行動を心がける必要性を強く感じました。

藤本 奎詩 選手

プロサッカーチームの運営に初めて参加し、多くの人々の支援があってこそ私たちの試合が成立することを実感しました。また、細部に対するこだわりが、お客様に快適な体験を提供する上で非常に重要であることを感じ取りました。私自身も、細部への注意を払い、感謝の気持ちを持って行動することを心掛けたいと思います。

写真提供／テゲバジャーロ宮崎

【テゲバジャーロ宮崎】2024 J リーグ新人研修　クラブ運営サポート活動レポート
辻岡　佑真、林　賢吾

2024 年 8 月 24 日（土）、宮崎県新富町に位置するいちご宮崎新富サッカー場において、テゲバジャーロ宮崎所属の辻岡　佑真　選手と林　賢吾　選手は、Jリーグ新人選手研修の一環として公式戦運営業務体験に参加しました。この研修は、プロサッカー選手としての自覚を育むとともに、試合運営の裏方業務に対する理解を深めることを目的としています。

研修当日、両選手は以下の業務に従事しました：

1. ホームゲームの設営
   スタジアム設営に参加し、フィールドや観客席の準備、試合の進行に不可欠な設備の確認を行いました。これにより、選手として日々の試合がスムーズに行われる背景には、現場で多くの人々が支えていることを実感しました。
2. スポンサーへの挨拶および接客
   スポンサー企業の関係者への挨拶や接客業務を担当し、プロサッカー選手としてのコミュニケーションスキルを養う貴重な経験となりました。特に、スポンサーのご家族との交流を通じて、クラブとスポンサーの関係性の重要性を再認識しました。
3. VIP 席での食事配膳
   VIP 席での食事配膳を通じて、細やかなホスピタリティとプロフェッショナルとしての姿勢が求められることを学びました。選手たちは、試合を観戦する VIP の方々に対する心配りの重要性を理解しました。

なお、この日提供されたケータリングサービスは、いちご株式会社のグループ企業であるいちごポタジェ株式会社によるものであり、選手育成をグループ全体で支援し続ける姿勢が示されました。

◎選手のコメント

辻岡　佑真　選手

今回、普段自分が試合をしている中で、どのような方々がどんなサポートをしてくれているのかを知ることができ、とても良い経験になりました。自分の想像以上に多くの方々が支えてくれていることに気づき、感謝の気持ちを新たにしました。これからは、この経験を忘れずに、日々の練習に励み、結果で恩を返したいと思います。

林　賢吾　選手

普段は経験することのない設営作業に参加し、現場の大変さを身をもって知ることができました。この経験を通じて、設営スタッフ一人一人への感謝の気持ちを改めて感じることができました。また、スポンサー様のご家族と積極的にコミュニケーションを取り、非常に貴重な経験を得ることができました。

写真提供／テゲバジャーロ宮崎

【テゲバジャーロ宮崎】2024Jリーグ新人研修　シャレン！活動レポート
高瀬　生聖、藤本　奎詩、辻岡　佑真、林　賢吾

2024 年 6 月 19 日（水）、宮崎県宮崎市にある「みどり食堂」で、高瀬　生聖　選手、藤本　奎詩　選手、辻岡　佑真　選手、林　賢吾　選手が、「愛あるゴハンを届けよう！」プロジェクトの一環として、地域社会への貢献活動を行いました。

①地域・社会課題：子どもの貧困
※子ども食堂は貧困対策だけではなく地域交流の場という一面もあります。

②協働者：支え合いの地域づくりネットワーク団体、江夏商事ホールディングス株式会社、
児湯養鶏農業協同組合、JA宮崎中央青年部、宮崎県農協果汁株式会社、ヤマエ食品工業株式会社、いちごポタジェ株式会社（敬称略）

③活動概要や内容、目的

概要

本プロジェクトは、子供たちの貧困問題に対する社会的認識を高め、具体的な支援活動を通じて子供たちに安定した食事を提供することを目的としています。クラブとしての社会的責任を果たすとともに、地域社会との連携を深め、サステナブルな支援システムを構築します。

目的

子ども食堂の運営には人・場所・食材の確保等の課題が多くある中で、子供たちに協賛企業からの栄養満点の食事を提供し、健康な成長を支援することを目的とする他、貧困家庭の経済的負担を軽減し、子供たちの教育機会やプロサッカー選手との交流機会を増やすことを目的とする。また、地域社会における子供の貧困問題への理解を深めていく。

活動内容

支え合いの地域づくりネットワーク地域様の協力のもと、地域の子供食堂と日程調整を行い、選手がクラブを通して寄附いただいた協賛企業からの食事を子供食堂に届けるとともに、現地で子供との食事やサッカー体験を提供する。

◎選手のコメント

高瀬　生聖　選手

子どもたちとの交流は、普段接する機会が少ない分、新鮮で刺激的な体験となりました。彼らのユニークな発想や率直な質問は、自身にとって多くの新しい気付きとなりました。
子どもたちの純粋な心は、自身のサッカーへの情熱を一層高めてくれるものです。これからも彼らのような自由な発想をサッカーに取り入れ、プレーの向上を目指していきたいと思います。

藤本 奎詩 選手
子どもたちの元気は、周囲にいる人々にも伝染するような力があります。彼らから受けるポジティブな影響は、私たち自身のパワーになると考えました。それによって、日々の生活においても前向きな姿勢を維持できると思います。
学校だけでなく、放課後に友達と共有できる安全で楽しい空間が存在することは、子どもたちの健康を育む上で非常に重要だと思いました。このような環境は、彼らが多様な人々と交流し、新しい友情を築く機会を提供していると改めて感じました。

辻岡 佑真 選手
子どもたちとの対話を通じて、自分の子供の頃を振り返ることは、とても非常に有意義な体験だと思いました。このような活動に参加することで、自分自身のサッカー選手としての立場を改めて認識できましたし、子どもたちの成長にとっても良いものだと思いました。今後もこのような機会を提供できればと思います。

林 賢吾 選手
地域にこのような施設があることを自分自身は認識していなかったので、すごく驚きました。友人と楽しい時間を過ごすだけでなく、新しい人々と出会い、交流を深めることができるコミュニティの場としても、大事な場所だと感じました。小学生から多くのパワーをもらったので、普段のトレーニングに、ひたむきに励んでいきたいです。

◎クラブ リリース
https://www.tegevajaro.com/news/kodomoshokudo/97078.html

写真提供／テゲバジャーロ宮崎